

野火止三丁目 平林寺 古府一郎(写光会) 平成 19 年



大和田 4-17 ふれあい橋上 から柳瀬川を望む 佐藤紀恵(写真クラブ G セブン) 平成 21 年



西堀三丁目 富士見新道 米軍大和田通信所付近

多賀昭郎(MASAKAクラブ)平成19年

駅に向かって右手は、「野火止

を埋立てて歩道とし 現在の商店はほぼ

続く第二工区であるが、

志木

「わがまち新座」写真展か

(その2)

野火止3丁目1番地45号野火止用水 小山 昇(畑中写真同好会) 平成 20 年 🌷

野火止 3-1 平林寺西側の 野火止用水の清流 十亀常五郎 (MASAKA 写真クラブ)







菅沢1丁目1番地 富士山を望む 小林精二(写光会)平成20年

SHIMIN PRESS

10月5日 第50号

発行人 特定非営利活動法人 「市民フォーラム」

編集人 原 昭二 制作・印刷 デジタル工房 048 (476) 9111 FAX 〒353-0004 埼玉県志木市本町 5-19-15

市民の目線で市民が発信する地域情報紙 **WEB SHIMIN** http://shimin.camelianet.com

CONTENTS

-PAGE 1 秋色深し! 新座の風光 「検索エンジン」の展開 地域情報:変貌する志木市の大通り

-PAGE 2,3 漢詩を楽しもう 憶新座市 大石 武 自詠詩書

-PAGE 4 Global Mind イスラエル紀行 (その2) 深瀬 克

インターネットで閲覧される

物」)が人気を

像」などは「キーワード」を使っ

火になったこの機能とそのプ 検索される。いまでは不可

を「検索

の高いディレクトリ 4に限定されない)

1996年にサービスを

その黎明期では、

域

旧上町の大通り県道の工 、本町一、三

用地買収が本年9月末、

新しい街並みを

櫛の歯

る世紀の工事である。 -化と幅3・5mの歩道を構築 ぼ中央の区域で、 有力な商店で賑わう志木市の -成二十年に完成した第一工区 新しい街並みの形成を指向す 電線類の地 また二丁目との境、 区となるか、 は至難の技である。

向かう「江 な通りで、 江戸道へ

が撤去されるのに対し

貌する志 なる。新 るか移転

江には慎重を期すべきだ。 付近の段差も著しいので、 なからざる高低差があり、 またこの通りの両側には、 予断を許さない。 道路の改 富士道入 描くこと ような街 ているの となろう。

かつての景観は遠い過去のもの 況)には火の見櫓が聳えていた。

簡素な画面と、 質の高いディレ 独創的な検 Googleの検 **まなく検索する、 人手で構築さ** ノトリがユー ところが ルサイト化の流れには逆行、 イトとして独走した。 ウェブページ検索のトップに ウェブサイト内をく ネットが一般化した ・ザーに受け入れら 告などを排除した 索技術に特化しつ 索エンジンは、ポー 続いて登場した

索エンジン」の機能と役割はき いる。そのとき発揮される「検 直ちに利用される時代に入って れ、世界中であまねく、しかも 情報は、原則「公開」で貫か ションなどのサービスポータル の集客力を武器として、オー 座を占めた。サイ を集め、検索サイ つファイルの「入れ

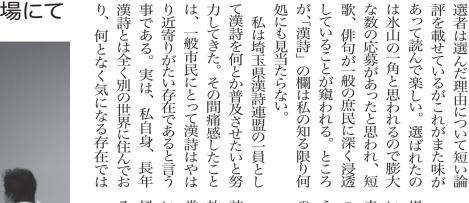
夕検索)も使われる。 得て活用されるようになった。 を用いた「横断検索エンジン」(メ ボット型検索エンジン」が力を を使って論理的に検索する「ロ 拡大してからは、「キーワード」 が、その後WWWが爆発的に 型検索エンジン」が主流であった れた質の高い「ディレクトリー アシステム、複数の検索エンジン 全文検索機能をもつソフトウェ 検索対象や機能は多様化し、

躍進する ネット社会は巨大 市民に提供し、 800816 本の ahoo が統合・ 万を提案する! コミュニケーションの利便性を

大石武

あったが無縁のものと思っていた。

「雁城詩会」の会場にて 漢詩を楽しむ會



風雅を楽しみつつ今日に到ってい 堂で石川忠久先生の講義を受けて 放されてからは御茶ノ水の湯島聖 読み始めたが、職務から完全に開 いる。そして作詩にも手を染め、 そしてそれから少しづつ漢詩を 70からの手習いである。

城国

春破

草木深在

の届かない処に有ると頭から決め 付けていたからである。 古典であり、門外漢にとっては手 その理由は、漢詩といえばごつご り、しかも、韻を踏み、平仄を合 わせる等々厳密な規則に縛られた つした難しそうな漢字が並んでお 初心者は長い文章だと息切れし

が晴れがましく掲載されている。

何と紙面一杯に多くの方々の作品

新聞には短歌、俳句の欄があり、

の浅かったことを思い知らされた。 う世界であったのかと自分の認識 場で慣れない業務に四苦八苦して 幸次郎、三好達治共著「新唐詩選」 いたとき、ふと手にしたのが吉川 (岩波新書) で、漢詩とはこうい ところが、現役を退き、別の職 る。(参照、松浦友久著「漢詩」 ことであろう。例に従って解説す 古来、日本においては、漢詩は日 本語で「訓読」されてきたという れる。更に、最も重要なことは、 手軽に入手出来ることも挙げら 説書が出版されており、それらを

とには違いない。唯、中国古典の 由は先ず短いということである。 語や史記よりも寧ろ親しみ易いの 素養のない一般人にとっては、論 学でもとより奥深く難解であるこ ではないかとも思われる。その理 漢詩は二千年以上を隔てた古文 た気分になり思わず陶然となる。 は失われているが、初心者にとつ と、古人と詩情、感情を共有し 声を出してリズム良く訓読する 夫した先人の叡智にあらためて敬 訓読を可能にする返り点等を工 ては得るものの方が遥かに大きい。 意を表する。

詩人、李白の詩を通じてその魅力 男性間の「友情」について盛唐の に最も特徴的であるとされている を言葉として表わすものとされて わたっているが、ここでは、漢詩 いる。そして、その主題は多岐に に迫ることにする。 漢詩は、志 (心の中にあるもの)

白

良く知られた

杜甫の「春望」

の節

黄鶴楼送孟浩然之広陵

と交わり、多くの名詩を残した。

不遇のうちに諸国を放浪して詩人

特に、「春眠不覚暁」という名句で

唯見長江天際流弧帆遠影碧空尽煙花三月下楊州故人西辞黄鶴楼

こくは さんがざい

日本語音読

じょうしゅん そうもくしん

唯だ見る長江の天際に流るるを を送る 弧帆の遠影 碧空に尽き 煙花三月楊州に下る 故人西のかた黄鶴楼を辞し 黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之く

国破れて 山河在り

日本語訓読

城春にして草木深し

句五字で八句よりなる) のリズム

定型詩(此の場合五言律詩、一

(日本語音読や中国語音読)で

ばかり。 揚州へと下ってゆく。 るこの黄鶴楼に別れを告げ 果てまで流れつづけるのが見える がて青い空のかなたに消え、 あとにはただ長江の水が、空の 春がすみに花咲き匂う春三月、 わが友、孟浩然先生は、西にあ 艘の帆かけ舟の遠い姿は、や

に、視覚的には五言律詩そのもの

と心にしみるのである。それなの 語自由詩のリズムなのですんなり はや定型詩のリズムではなく、文 ない。ところが、日本語訓読はも 読んだのでは私達は全く理解でき

であり、又、直訳しているので原

もとより原詩のもつ音韻美

(石川忠久、「李白」、NHK漢

詩をよむ 協会、昭和63年) 大の詩人と言われている。旅を、 李白……杜甫と並んで中国最 28 頁 日本放送出版

のままに行動した。そして、その 仙」として親しまれている。 れたのに対し、奔放な李白は 高い作風の杜甫が「詩聖」と呼ば 数々の名作を残した。 謹厳で格調 酒を、又神仙、人を愛し、情熱 **育熱をそのまま詩として奔騰させ** 黄鶴楼……長江に臨む楼の名。

仙人が壁画の中から黄色い鶴を呼 こに逗留したと言われている。 び出しそれに乗って飛び去ったと いう伝説がある。多くの詩人がこ 孟浩然……湖北省襄陽の土豪

知られる「春暁」 は今も広く人々 と。日本語の亡くなった人の意と に愛されている。 故人……親しい友人、旧友のこ

異なるので注意。 いるとき使う。 之・・・・・ゆく。 行く先が決まって

るが風光明媚で酒も旨く、当時、 かすみ」のこと。 商業都市として栄えていた。 揚州……都から遠く離れてい 煙花……花がすみ。煙は「もや、

の情に溢れていたに違いない。と られる揚州へ向かって友に別れを を表わす言葉は何処にも見当た ころがこの詩にはそのような感情 る李白の心はそれにも増して寂寞 告げ舟で長江を下って行く。しか し、東へと去って行くその姿には 抹の寂しさが漂っている。見送 孟浩然は、華やかな気配が感じ

まれ薫じ込めら ているのみなのだが、李白の惜別 の状景がそのまさ ている。この詩に 常に形象をかりてその裡に刻み込 せることは稀で、 た「新唐詩選」 いては溢れる感情をそのまま迸ら するよりも深く ま淡々と述べられ においても、別れ れている、と述べ

余韻嫋々として私達の胸にせまっ の情が万言を弄っ 作と称えられる所以である。 てくる。古来、

てついていけない。又、多くの解

李白

蕭揮落浮孤此白青 篇手日雲蓬地水山 蕭手日雲蓬地水山 班自故遊万一遶横 馬茲人子里別城郭 鳴去情意征別城郭

弧蓬 万里征く 此の地 一たび別れ為し 落日故人の情が実施する 青山北郭に横たわり 蕭蕭として班馬鳴く 手を揮って茲より去れば 白水東城を遶るはくすいとうじょう めぐ

馬、という説もある。

をめぐって流れて 立つ友人を見送る この土地に別 白く照り輝く川は、城の東側 青い山なみが郭の北側に横たわ 秋の夕暮、町 ている。 の郊外で遠くへ旅 れを告げてしまう

らない。詩人三好達治は先にあげ の中で、漢詩にお すべての情感は うのだ。 のように、万里のかなたをさすら の心のようだ。 空に浮かぶ雲は、旅人である君 君は、風にちぎられた根無し草

ないた。 去っていこうとする時、 わたしの気持をあらわすようだ。 別れゆく馬も、さびしげにいな 落ちゆく太陽は、別れを惜しむ たがいに手をふって、ここから

のことば」81頁、平成14年、斯 (石川忠久「MY古典 唐詩選

送別詩の最高傑

壁。ここでは、町そのものの意。 ぎ。漢詩では、さすらう孤独な 旅人をさす。転蓬。 とは水の流れ、つまり川の意。 弧蓬……風にちぎられたよも 征・・・・・遠くへ行く。 白水……白く輝く川、水はも 城……町をとりかこむ城

如(ためらって進まぬこと)たる 馬鳴く」とあるにもとづく。 しい鳴き声。詩経に「蕭蕭として なく漂う旅人の象徴。 班馬……別れ行く馬、一方、班 班……別れる、わかつ。 遊子……旅人。 浮雲……空に浮かぶ雲、あても 蕭蕭……別れ行く馬のものさび

盛り上げるのに役立てているが、 等々作者との関係には全く触れて 述べられているばかりである。後 等離別に関係する古典的な詩語 半では、弧蓬、征、浮雲、遊子 感傷的な形容詞はほとんど使われ をふんだんにちりばめて雰囲気を いない。唯、別れの場面が淡々と て、誰を送ったか、其の背景は、 前半では、先に述べた詩と違っ

れでも私達には別れの情景がしみ かもしだしているのみである。そ 声を「蕭蕭」と表現して寂寥感を じみと伝わってくる。 わずかに馬のいななく

落浮 旧 田 故 人 情

きとともに、何かしら心の奥底に けながら、長く読まれてきたし、 共鳴するものが感じられる。五 又、今後も読み継がれていくに違 ても、このような含蓄ある名対句 来の良さが何故か損なわれるよう が凝縮されているが、短いが故に いない。正に、詩情は、「千載もな な気がしてならない。いずれにし メージをふくらませるのである。 かえって読者はそれぞれ自らのイ お昨の如し」である。 は様々な感興を人々の心に植え付 **意訳してしまうと、原詩の漢詩本** 声に出して訓読すると、快い響 短い言葉に様々な感情 かったと思っている。

成する修辞法の一つ。この場合、 て意と情が見事に対になっている。 連続した二つの句。対称の美を形 対句……構造や意味が相対して 遊子と故人、そし

尽くすことは至難の業である。ま であるときては全く論外である。 伝えられればと思って敢えて筆を して、語り手が駆け出しの門外漢 この短い文で漢詩の魅力を語り 漢詩の素晴らしさの一端が

191910 | PROSER | 18

平林寺総門

訪平林寺梅林

終英翻錦喜相迎 人語乗風花杪到 時本小徑曉光清

憶新座市 左右 武

寄

新 座

市

埼玉県漢詩連盟会長

雖都菜市

無鄙園中勝共黄商

景存翻館

坐郊那趣 相外趣繁 的助加華

ものの買い物には便利だし、自然 ており、目覚しい景観には乏しい たところには、何と、今も方々に さらに、繁華街からちょっと外れ 私はこの地に移り住んで本当に良 は残っているし、大変住みやすく 市の典型的な特徴を色濃く持つ 畑が残っており、季節におうじて 層マンションが林立して妍を競って 年になろうとしている。その間の に新座市は東京近郊の新興小都 様々な野菜が栽培され、道行く ている雑木林が散在しているし、 うは驚くばかりで、今や立派な商 人の目を楽しませている。この様 いる。一方、武蔵野の面影を残し 志木駅、新座駅周辺の変わりよ **占が軒を連ね、そのかたわらに高** 新座市へ移り住んでから三十五

漂い、田舎びた趣きを醸し出して ている。 り合っているこの住みやすい郊外 いる。 な野趣溢れる田舎がうまく交じ 畑に黄色い菜の花が風に揺られて 立派な商店が軒を連ねて妍を競っ の新座市を、見事な景色には恵 このように、便利な都市と素朴 横路に入ると、所々残っている 町の中心部は人通りも多く、

誇りに思うのだ。 まれていないものも、

て人々に親しまれているのが名刹平 おい新座市の中で、特別の存在とし 正に禅寺と思わせる厳然とした趣 する。本堂、僧堂とも素朴な中にも、 ると我知らず心が引き締まる思いが 行われており、寺域に足を踏み入れ 杯寺である。 今もなお厳しい修行が このような風光明媚からはほどと

なる風情を醸しだしている。更に、 ヒノキ、マツ等が鬱葱と茂り、 魅了している。 広大な寺の後林にはスギ、

勝景無しと雖も坐に相誇る。

都鄙共存する郊外の町、

は殆ど知られていない。長年この地 顧問をお願いしている。連盟の行事 月の初め、私は初めてこの梅林を目 のある私も知らなかったが、昨年二 それは梅林である。ところが世間に 老師のご好意により一般には開放さ として、平林寺を会場として吟行 村玄龍大師には埼玉県漢詩連盟の の当たりにした。実は、平林寺、野々 れていない梅林に入ることが特別に 会をおこなうよう企画したところ、 に住み、平林寺を何度も訪れたこと 許可されたのである。 唯もう一つ、素晴らしい林がある。

雲水に誘導され、私たちは丁度花 穫するのも一つの目的であるらしい。 とのことである。又、梅の実を収 をそぞろ歩きした。 綻びはじめた楚々とした梅の木の下 行の一環として管理、整備している この梅林は、この禅寺の僧侶が修

を漂わせている。

最近は楓が数多く植えられ、秋と もなると一斉に紅葉し、訪れる人を 幽深

ことに気が付く。これも時代の流れ そこに真新しい住宅が軒を連ねている えていた畑がいつの間にか整地され、 とだが、同時に、自然との調和のと 化の波が押し寄せ、今まで野趣を添 す大切になると思っている。 れた町づくりを目指すこともますま であり、町の発展の為には喜ばしいこ 最近、この新座市にも急速に都市

終英 錦を 翻し 喜び相迎う こうさい じょう あき まご あいか 人語 風に乗じて花杪に到れば

を一目見ようと打ち揃って芳しい香り の中を歩いて行く。 たりは清々とした気に包まれている。 吟行会の人々は早春に咲く梅の花 梅林の小路に朝日が差し込み、

喜んで、思いがけず訪れた賓客を迎 届くと、梅の花は紅い花びらを翻し、 人々の話し声が風に乗って枝先に

人に愛読

地上に最 高の位置を占める、 一学としての唐詩は、 美の不朽の宝として万 その点で恐らく

されるであろう。



潮風

市

川洋

嵐

山

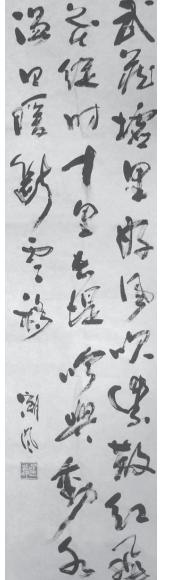
風

水十紫武 温里散蔵

最も優雅なる墨戯

日長紅墟 吟 暖堤飛里断吟花好 浴 雲興綻風 陽 移動時吹 光







の暮しも・・・

イスラエル紀行 深瀬 克

な げ

きの

=その二=

オリーブ山からエルサレム市 ユダヤ教と「嘆きの壁」

とした丘の頂上である。 を命令通り「生け贄」にしよう の始祖アブラハムがエホバの神か 街を眺望すると、先ず目に飛 ら信仰心を試され、 年頃ユダヤ人とアラブ人の共通 び込んで来るのが黄金に輝く いる場所は、紀元前2000 である。「岩のドーム」が建って イスラム教寺院「岩のドーム」 さらにこの場所に紀元前 息子イサク

そが現在「嘆きの壁」と言われ、 壁の一部が残されていた。それこ を築いた。しかしこの神殿も紀 ユダヤ教最大の聖地となってい 再び破壊されてしまったが、城 2神殿」と呼ばれる立派な神殿 頃ヘロデ王が大幅に増改築し「第 るのである。 元70年頃ローマ帝国軍によって より破壊されてしまった。その 後再建されたものを紀元前20年 **兀前600年頃バビロニア軍に** あった。

の場所に「ソロモンの神殿」「第 統派の人たちは、いつの日かこ 現実に納得できないユダヤ教正 ラム教寺院が建っている。この の丘には、現在黄金に輝くイス ユダヤ教にゆかりの深い神殿

ロモン王が神殿を築いたが、紀 960年頃イスラエル王国のソ るが、最初に聖地としたのは、 明らかにユダヤ教の人たちで エルサレムは3宗教の聖地であ て祈り、身体をゆすりながら聖 たユダヤ教の伝統的なスタイル 2神殿」の再建を願い、 書を読んでいるのである。現在 をし、「嘆きの壁」に額をつけ 子・黒い服・ヒゲもじゃといっ シアの再来をも願って、黒い帽

安息日は働かない

りたい・・・人々 のことをもっと知 近い国 かり各階止まりの方に乗って このため安息日のエレベーター たホテルでは「各階止まり」と は自動運転(各階止まり)に 理解できるが、エレベーターの り置きしておく。洗濯や掃除 にしない。従って食べ物は作 に来たら降りる。私が宿泊し セットされており、来たエレ 行き先ボタンを押すことも働 の日没まで、働く行為を絶対 る人たちは、金曜日の日没(星 しまったら、なかなか次の階へ くこととして禁じられている。 も勿論しない。この程度なら が三ツ見えたとき)から土曜 「通常運転」があり、 ベーターに乗り、降りたい階 ユダヤ教の戒律を厳格に守 一度うつ

動かないので随分忍耐力の訓練 キブツの農場と ヨルダン川

> うち昔スタイルの良さを 270ヵ所あるキブツの 義的性格が強まり、約

> > 発売:揺籃社 電話:042・620・2616 発行:(株) ヒューマン・クリエイティブ

全国書店で発売中 ネットでも購入できます

うですか」と言うほか無い。 はいけないとなると、「ああ、 になった。同じように禁じられ を絞ることもしてはいけないと 水浴に行ってもその後水泳パンツ ていることは他にもあって、海 い、カメラのシャッターも押して され、その「通帳」を使ってキブ ている。従って、一文無しでイス

ツ内の売店で一定点数までの生

活必需品を買える仕組みになっ

3。 キブツ

各国にあった集団農場を参考に とか「共同体」と言う意味のヘブ するための組織を作った。 てきた彼らは、当時の共産主義 織である。念願の新天地にやっ たユダヤの若者たちが作った組 からパレスチナの地に移住して来 会主義思想に燃え、東欧・ソ連 ライ語である。シオニズムと社 定した生活を保障し祖国を再建 して、相互に助け合いながら安 「キブツ」とは、「グループ」

はイスラエル人と言った方が良い めての日本人だったそうで、今 受けたそうだ。兵役に服した初 結婚しユダヤ教に改宗し割礼も スターした。ユダヤ人の女性と ルに来てそのまま住み着いてし 更に別のキブツに移って英語をマ まった人だった。先ずキブツに んは25年前16歳の時にイスラエ 入ってヘブライ語をマスターし、 現地ガイドのH・サイゴウさ

のかもしれない。 彼の話によると、キブツには 界中の人たちが集まって ボランティアを含めて世

ふれ合い、大家族・共 のが普通で、 同生活の良さを味わうこ る不満も出てくるとのこ ため、「悪平等」に対す はマイペースの者もいる ドイツ人は勤勉だが中に た。しかし、日本人とか とができるとのことだっ 語も5ヶ国語ぐらい喋る 然と身に付くそうだ。言 くるので、国際感覚が自 人と人との

事をすると同時に「通帳」が渡 ツに入った者は、与えられた仕 ユダヤ人の親子



ラエルに来た者にとっては、

助かる仕組みである。

中の若者たちがボランティアと 流の訓練の場としての機能は大 して集まってきており、国際交 残しているのは10ヵ所程になって しまったそうだ。しかし、 いに果たしているとのことであっ 世界

イスラエルの観光客

あろう。インドネシアやマレーシ 間5000人程度に過ぎない 語は、 中から巡礼がやって来るからで だった。ユダヤ教・キリスト教・ 業」とのことで、これは予想外 200万人に及び、イスラエル ンが来ていた。ちなみに、教会 がいたし、韓国からはクリスチャ アから来たイスラム教の巡礼者 イスラム教の聖地があり、世界 における最大の産業は「観光産 が、海外からの観光客総数は スラエルを訪れる日本人は年 に置いてあったパンフレットの言 現地ガイドの話によると、イ イタリア語・フランス語

> 者にとっては身近な国になって 上でも遠い国だが、 エルは、飛行時間でも気持ちの かった。日本人にとってイスラ 国語で、残念ながら日本語は無 オランダ語・ロシア語・韓国語・ スペイン語・英語 アラビア語・ヘブライ語の10ヶ 3宗教の信 ドイツ語・

> > 者に、本紙「市民プレス」を同 梱・配布して戴いております。

イムス」をご購読されている読 より、同社の情報誌「ニュータ

ニュータイムス社のご好意に

お知らせ



スすることはなかった。 ていたので、精神的にリラック かし私はイスラエル旅行が何事 ラックスできると言うのだ。し その上海抜マイナス400mに 帯には温泉があり、 位置するため酸素濃度が高いら だそうだ。死海周辺の大地溝 もなく無事に終わることを願っ んこ美容」も人気があるそうだ。 ず、保養目的でもやって来るの 旅行目的は巡礼だけに留まら しく、肉体的かつ精神的にリ ふんだんに含んだ土による「泥 イスラエルを訪れる観光客の ミネラルを

(6月/2010記す)=つづく=

新書判 紀を経て完成 の増進に努めます。

NPO市民フォーラムが編集・発地域情報紙「市民プレス」は 読者の「オピニオン」(意見・感想) 無料で配布しています。

ツを離れてしまうそうだ。

を語り、歴史的な変遷を偲びつつ、気ままに読み下せるように編集された物語り。 した環状の「山手線」は、首都東京の大動脈となる。本書は山手線各駅近傍の地誌

240ページ 定価 1260円(税込)

新橋から品川・横浜へ、 日本の鉄道建設は明治五年に始まった。 半世

編集は「NPO市民フォーラム」

山手線は廻る」環状鉄路の誕生

クリエイティブ・ブック 第11号

も当初と異なって資本主 最近はキブツの経営方針 れの子供の60%がキブ

なり、現在ではキブツ生

とキブツに戻りたくなく

と。さらに、大学に進学

し外の自由な空気を吸う

(一、四、七、十月、各月五日)発行。

本紙「市民プレス」は年四

E-mail, newtimes-net@nifty.com

FAX. 048-471-3240 TEL. 048-486-6138

「ニュータイムス社」

お申込みは



特定非営利活動法人 NPO「市民フォーラム」

て市民の公共参加を推進します。 して取材活動を行ない、報道によっ また市民間のコミュニケーション この法人は地域住民と行政に対

をお寄せ下さい。 TEL 090 (3048) 5502

編集部 原宛にどうぞ